釧体協だより

第76号
発行　釧路市体育協会
平成31年3月31日

平成30年度（第51回）釧路市スポーツ賞　杉山　尚孝氏

永年にわたってスケート競技の普及振興に貢献された釧路スケート連盟副会長杉山尚孝氏（79歳）が、本年度の釧路市スポーツ賞を受賞されました。

杉山氏は昭和59年に釧路スケート連盟の会員となり、以来34年以上にわたり連盟の運営に積極的に取り組まれ、スケート競技の普及振興に尽力されるとともに、平成16年より北海道スケート連盟スピードスケートバッジテスト委員会釧路地区委員、平成24年より北海道スケート連盟スピード委員会釧路地区代表委員を務めるなど、釧路市、道内スケート競技の競技力向上のため尽力され、平成26年からは釧路スケート連盟副会長として、会長を補佐し連盟の組織運営の取りまとめ役として活躍されております。

また、昭和59年に創設された釧路市スポーツ少年団では、役員として献身的に活動され、昭和62年から29年間、副本部長としてスポーツによる青少年の健全育成に奔走し、現在も顧問として大きな支えとなっており、スポーツの普及振興に多大な貢献をされております。

平成30年10月20日（土）、釧路プリンスホテルで釧路市スポーツ賞の授与式が行われました。式辞で岡部義孝教育長は「氷都くしろの発展の陰に欠かすことのできない存在として改めて敬意を表します」とその功績を讃えました。受賞者の杉山氏は「これからも体力が続く限りスポーツの普及発展のため尽力したい」と挨拶しました。

釧路市長・釧路市教育委員会教育長・釧路市議会議長へ（12月25日）

社会体育施設の補修・備品等整備要請活動

釧路市体育協会は、新年度予算編成に向け、市内体育施設の補修改善や備品等整備に関する要望項目をまとめ、蝦名市長、岡部教育長、秋田副議長（議長代行）に平成31年度要請書を手渡しました。

要請書は「湿原の風アリーナ釧路の施設・備品等の整備」「大規模運動公園内体育施設の計画的な補修及び更新」「その他の施設については、緊急性及び安全性を踏まえた早期の補修・改善」の３区分に分けた13団体からの40要望項目と「柳町スピードスケート場を屋内総合スタジアム化する必要性を理解いただき、建設実現に向けた助言・指導」について特段のご配慮を要請しました。

張江会長は実業団アイスホッケーチームの廃部決定に触れ「氷都が疲弊する。冬のスポーツを盛り上げていかなければならない」と柳町スピードスケート場の屋内総合スタジアム化の建設実現を訴えました。

第73回 釧路市冬季体育祭総合開会式

第73回釧路市冬季体育祭開会式が11月29日夜、釧路市生涯学習センター多目的ホールで行われました。12月４日開催のアイスホッケーから本年３月開催の長靴アイスホッケーまで５競技、約2,500人の選手たちが熱戦を繰り広げました。

開会式では、前大会優勝者による優勝杯返還後、大会長である釧路市教育委員会岡部義孝教育長からレプリカを授与しました。

レプリカ授与後、大会長から「平成最後の冬季体育祭です。氷都くしろを大いにアピールする皆さんの素晴らしいプレーを期待しています。」とエールを送りました。

選手宣誓では、釧路市長靴アイスホッケー協会「ワラビーズ」の木村公一選手が「対戦相手に敬意を表し、全力を尽くして最後までプレーします。」と健闘を誓いました。

大会長挨拶

選手宣誓

優勝杯返還

レプリカ授与

平成30年度 釧路管内体育協会連絡協議会

役　職　員　等　研　修　会

釧路管内８市町村の各体育協会で組織する釧路管内体育協会連絡協議会は、釧路市音別支部の担当で11月10日、11日音別町コミュニティセンターを会場に「役職員等研修会」を開催しました。

管内体育協会における競技力の向上、地域スポーツの振興と連携強化を目的とするこの研修会は役員ら24名が参加しました。

１日目は「地域にとって必要とされる企業を目指して～私はこんな理由で釧路に根を下ろすことを決めました～」との演題で、元国土計画のアイスホッケー選手でした㈱トップオブ釧路 代表取締役社長 藤井芳和氏が講演しました。

２日目はセルフケアサポーター代表でみなみ病院の理学療法士であります廣谷迪正氏が「ウォーキング講習」と題して講演の後、正しい姿勢や歩行、ストレッチなどの実技を行いました。両日とも実り多い研修となりました。

第74回 国民体育大会冬季大会 イランカラプテ くしろさっぽろ国体

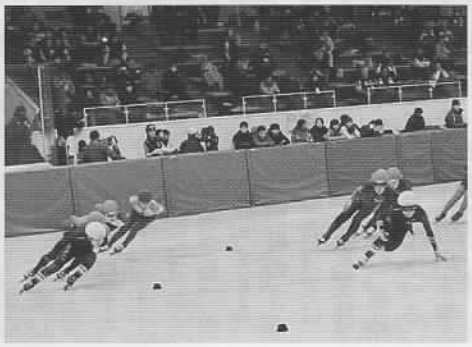
スケート競技会・アイスホッケー競技会 1/30・31　2/1・2・3

釧路新聞社提供

第74回国民体育大会冬季大会が「北国の 雪と氷に 刻む夢」をスローガンに、43都道府県から1745人が参加し開始されました。開始式では北海道選手団旗手の田畑真紀選手とともに釧路出身の中村優選手（フィギュア）が選手宣誓を行いました。

大会期間中、各会場では温かい飲み物や汁物でおもてなし、大変な人気でした。

北海道はスケート競技で男女総合２位でしたが、アイスホッケー競技では少年が16連覇、成年が３連覇を成し遂げ、総合１位の成績で５日間の競技会を締めくくりました。



氷都くしろの象徴　日本製紙クレインズ 準Vで69年の歴史に幕

釧路を本拠地とした実業団アイスホッケーチーム「日本製紙クレインズ」が3月31日をもって69年という長い歴史に幕を下ろしました。廃部は昨年の12月19日に発表され、アイスホッケー関係者やファンに大きなショックを与えました。最後のリーグとなった準Vへの軌跡を紹介します。

釧路でのレギュラーリーグ最終戦（1月20日）アニャンハルラ戦は延長戦の末惜敗でしたが、試合後選手たちは円陣になり、上野主将が「プレーオフ戦で釧路に戻ってきます」と挨拶しました。

レギュラーリーグ4位が確定し、釧路に戻ってきて迎えたプレーオフ第1ラウンドは2月16日、17日、19日の3日間、5位の王子イーグルスと対戦しました。王子の応援席とベンチ裏には「永遠のライバル　氷都釧路×氷都苫小牧」の横断幕が掲げられていました。先に2勝したチームが次のセミファイナルへ進めますが、1勝1負と両者一歩も引かない熱き戦いが繰り広げられました。負ければ公式戦最後の試合となる第3戦目は平日の夜にも拘わらず、2788人の観客が詰めかけ、声援を送るなか0対0で延長戦に入り開始6分過ぎ、死闘を制する劇的ゴールを決め、ファンは総立ちで歓喜に沸きました。

セミファイナルは先に3勝した方がファイナルへ進めます。試合は2月23日からレギュラーリーグ1位のデミョンキラーホエールズ（韓国）と行いました。初戦1対1で延長戦へ突入し、アジアリーグ初となる再再延長となり、上野主将が113分に亘る激闘を制するゴールを決めると勢いそのままに3連勝しファイナル進出を決めました。

ファイナルも3戦先勝方式でレギュラーリーグ2位のサハリン（ロシア）を迎えてのホーム2連戦。初戦黒星で最後のホーム戦となる2戦目は今季最多観客数3011人が熱い声援を送るも、2対5で敗れ2連敗となった。負けると後がない第3戦目は相手国ロシアで行い3連続得点するも残り56秒で追いつかれ延長戦へ突入。19分11秒サハリンがゴールを決め69年にわたる戦いが終わった。プレーオフは熱闘の連続でした。

スポーツ振興基金を活用した助成制度を開始

4月1日から、オリンピック参加者には1人3万円、世界選手権大会その他国際競技会参加者には1人1万円を助成する制度を始めます。助成対象は加盟団体に加入していて、釧路市内に住所を有する団体又は個人です。助成金の交付を受けるには、申請が必要ですので、事務局（TEL 31－2600）までお問い合わせ下さい。

編集後記

本号が平成最後の号となる。▲体協だよりで平成を振りかえってみると総合体育館建設に関する記事が多いと感じた。▲平成9年以降、道立の総合体育館としての建設を目指し、道や道教委に陳情を行ってきたが、平成15年11月道立を断念し国の補助事業へと方針転換。その英断が実を結び、平成18年8月着工、平成20年9月オープンを迎えるが、その当時の様子を垣間見ることができる。また、オープンの記念式典は「湿原に花ひらく　世紀の式典」と表現され、当時の半端ない喜びが伝わってくる。▲釧路市、阿寒町、音別町の3市町の合併による体育協会合併では、平成18年4月評議員会で阿寒支部、音別支部として加わり、新「釧路市体育協会」と表現されている。▲体協だよりはその時代の出来事、お知らせ記事などが掲載され、新たな発見もあった。これまで編集に携わってきた人たちの腕の見せ所や苦労などを窺い知ることができる。▲10年後20年後に振り返った時、その当時の様子が分かるよう頑張りたい。▲最後に、平成最後の号で氷都くしろの象徴、日本製紙クレインズの廃部を掲載するとは思いもよらなかったことである。最後となるシーズンのプレーオフは観客と一体となった熱き戦いでした。新たな戦いがはじまることを願うものです。